

氏名 (生年月日)	はやし <b>林 憲史</b> (昭和 54 年 9 月 24 日)
本 籍	福 井 県
学 位 の 種 類	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	乙 第 2 8 8 号
学位授与の日付	平成 2 9 年 7 月 2 7 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	Glomerular mannose-binding lectin deposition in intrinsic antigen-related membranous nephropathy (内因性抗原関連膜性腎症における糸球体マンノース結合 レクチン沈着)
論 文 審 査 委 員	主 査 正 木 康 史 副 査 上 田 善 道 松 井 真

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、ヒト MN において PLA2R および THSD7A という糸球体上皮細胞に発現する内因性抗原に反応する自己抗体が発症に重要で、主に IgG4 サブクラスに属する抗体が本疾患の補体経路活性化に関連する事を明らかにした。特に、IgG4 抗体と MBL の沈着は内因性抗原関連 MN に有意に認められ、糖鎖不全 IgG4 抗体によるレクチン経路からの補体活性化の可能性が示された。レクチン経路活性化に必要な MBL は、内因性抗原陽性 MN において強く認められ、その臨床経過に対する負の因子として影響していることが明らかとなり、予後予測因子として重要な可能性が示された。さらに、抗 PLA2R および抗 THSD7A 抗体が膜性腎症のバイオマーカーとして有用な可能性も期待され、臨床腎臓病学に寄与するところが大きいと考えられた。

以上により、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと認められる。

---

(主論文公表誌)

Nephrology Dialysis Transplantation (in press)